

後期「学校評価アンケート」にご協力いただきありがとうございました

保護者の皆様には、1月の後期「学校評価アンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。

後期の学校評価は、前期同様保護者や教職員、児童生徒のアンケート結果と、授業参観等でいただいたアンケートの結果を踏まえて分析をしています。紙面では、保護者アンケートの結果を保護者全体と学部別で、また教職員の結果は教職員全体として前期後期を比較できるように表にして掲載しています。さらに、本校ホームページにて、教職員と保護者全体の結果を比較したグラフや、児童生徒のアンケート結果を表にしたものをお見せしますので、別途ご覧ください。

なお、本分析結果については、全教職員に周知し、2月28日の学校運営協議会において報告し、委員の皆様からご意見を頂戴しております。皆様からいただいたご意見を参考にして、次年度も全教職員が一丸となって課題改善に取り組んでまいります。

これからも、どうぞよろしくお願いします。

＜平成30年度学校教育目標＞

社会参加し、生き生きと活動したいという
児童生徒の願いを実現するために、
個々の可能性を最大限に伸ばす

＜目指す児童生徒像＞

興味や関心を抜け、心豊かに生きる

願いや夢に向かってすすむ

役割を担い、役に立とうとする

人を大切にし、共に生きる

丈夫な身体をつくる

元気に挨拶する

「くらす・はたらく・たのしむ」

＜後期学校評価アンケート結果分析＞

◎実施 平成31年1月

◎方法 各項目について「実現度」を5段階で回答。
児童生徒は「実現度」を4段階で回答。

◎回答率

	保護者	児童生徒	教職員
回答数	129	86	134
回答率	70.1%	45.2%	100%

* 1家庭に1枚配布

＜アンケート結果について＞

- ・実現度の「よく出来ている」と「大体出来ている」の回答を合わせた割合（%）を、「学部別」と「保護者全体」「教職員」の前期と後期で対比できるように表示しています。
- ・前期と比較して評価が下がった項目は□にして表示しています。
1ポイント（1%）以上評価が上がったものは太字と下線で表示し、
その内5ポイント（5%）以上上がったものは■で色を付けています。

【保護者・教職員】

質問項目	小学部		中学部		高等部		保護者全体		教職員	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
◆元気に挨拶する										
・子どもは、自分なりの方法で挨拶をしている	76.7	87.1	81.2	91.4	86.0	96.9	83.2	93.0	96.4	96.9
・教職員は、保護者や来校者に挨拶をしている	100	93.5	100	97.2	92.2	98.4	96.8	96.9	99.1	100
・教職員が児童生徒に接する時の言葉遣いや態度は適切である	96.6	100	100	97.2	93.7	93.6	96.8	96.2	81.1	79.8
◆丈夫な身体をつくる										
・学校では、健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている	100	100	96.8	94.3	95.2	98.4	97.5	97.7	94.5	95.4
・子どもは、基本的な生活習慣が身についている	83.3	90.3	93.8	88.6	86.0	90.3	88.0	89.8	81.1	90.0
・わたしは、子どもが健康について意識できるよう取り組んでいる（「しあわせ」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）	66.7	83.9	71.9	88.6	81.0	85.7	75.2	85.3	82.8	90.0
◆人を大切にし 共に生きる										
・子どもは、相手のことを考えて行動しようとする態度が育っている	50.0	70.9	59.4	65.7	61.9	74.6	58.4	71.3	88.2	83.1
・交流及び共同学習で、児童生徒は自分らしく活動している（居住地校交流、桃山小・桃山中・府立桃山高等との交流及び共同学習等）	70.0	77.4	65.6	80.0	54.9	66.1	61.3	73.2	67.6	71.6
・子どもはいろいろな人と関わって活動している（学校での校外学習、実習、地域の行事参加等）	83.4	80.7	81.2	91.4	73.0	76.2	77.6	81.4	87.4	89.2
・わたしは、子どもが人と関わっていく上でのマナーやルールを身に付けられるようにしている	53.3	58.0	65.6	85.7	61.9	82.6	61.3	77.6	89.2	94.6

質問項目	小学部		中学部		高学部		保護者全体		教職員	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
・学校では、ルールを守り、相手のことも考えて行動するなど、集団生活の基本に関する指導が行われている	80.0	100	90.6	94.2	87.3	93.7	87.1	95.4	91.0	93.1
◆役割を担い 役に立とうとする										
・学校では、子どもが役割を担い主体的に取り組む活動をしている。	90.0	93.5	87.5	97.1	84.1	87.1	86.4	91.5	92.8	93.8
・わたしは、子どもの「できること」をみつけて褒めている	90.0	83.9	86.6	82.9	76.2	87.3	82.1	85.3	97.3	97.7
◆願いや夢に向かって進む										
・子どもは、目標や意欲をもって活動している	50.0	67.8	70.0	71.4	55.6	71.4	57.7	70.6	82.0	89.3
・保護者と学校は、子どもの願いや目指す姿を共有している	82.8	93.6	86.2	88.6	87.3	84.1	85.9	88.3	88.2	86.8
・学校は、保護者と連携して、子どもの進路（次年度、次学部、卒業後等）について考えている	70.0	90.4	79.3	85.7	77.8	88.8	76.2	88.3	86.5	92.3
・本人および保護者の願いが十分に、個別の包括支援プラン反映されている	93.3	100	93.1	97.1	92.0	92.0	92.7	95.4	88.1	84.6
・学校は、子どもの年齢や適性に応じた進路学習を行なったり、関係機関との連携をしたりしている	86.7	80.6	79.3	88.6	77.7	77.4	81.3	81.2	77.3	84.7
◆興味や関心を拡げ 心豊かに生きる										
・学校は、子どもの興味関心を拡げ、個性を伸ばす授業をしている	86.7	90.3	89.6	91.5	84.1	87.1	86.1	89.0	88.3	90.7
・子どもは、好きな活動や興味を見つけて取り組んでいる	83.3	87.1	83.4	88.6	74.6	85.3	78.8	86.7	90.1	89.3
・子どもは、休日や放課後を、楽しく過ごしている	96.7	90.4	93.3	94.3	85.7	91.8	90.3	92.1	79.0	86.9
◆その他										
・学校の様子は、学年だよりや学校だより、学校ホームページなどでよくわかる	93.4	96.8	86.2	94.3	92.0	93.6	91.0	94.6	95.4	94.6
・学校は、物品の整理・整頓や安全・事故予防に取り組んでいる	93.4	96.8	96.7	97.2	82.5	87.2	87.8	91.2	76.5	80.0

<分析結果>

①<元気に挨拶する>



「子ども、教職員ともに挨拶ができている」 保護者・教職員から 90%以上の評価。100%を目指して頑張ります。

「子どもは、自分なりの方法で挨拶をしている」の実現度の項目では、肯定的な回答（よく出来ている、大体できている：以下同じ）が、保護者全体（以下保護者）では 93.0%で、教職員全体（以下教職員）では、96.9%ありました。前期の結果と比較すると、保護者・教職員共に実現度が上がりました。また、児童生徒アンケートでは、「自分なりのしかたで挨拶をしている」の項目に於いて、肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う：以下同じ）が 91%で少し下がりました。児童生徒の回答が下がったことは残念ですが、日頃の姿からアンケートの結果を見ると、児童生徒自身がもっと自分から挨拶をしようという意欲の表れではないかと考えます。保護者の回答が上がったのは、自分から、友達や指導者に対して挨拶をする機会が多い、学校生活での姿をいろいろな場で見ていただけた結果ではないかと考えます。これからも、学校でできるようになった力を家庭や地域に広げたり、いかせたりできるように、児童生徒自身が、自分なりの挨拶の方法を身に付け、自信を持って挨拶ができるように日々取り組んできたいと思います。

前期同様、児童生徒が、「元気に挨拶する」という姿を目指すためには、教職員自身が挨拶をすることや、児童生徒に対して適切な言葉遣いや態度を示し、児童生徒の手本となるようにすることが大切なことです。

「教職員は保護者や来校者に挨拶をしている」の項目に対する保護者から見た教職員の肯定的な回答は 96.9%，教職員の肯定的な回答は、100%でした。前期の評価を受けて、全教職員が保護者や来校者に挨拶をすることに意識を高めてきたことが分かる結果となりました。

一方、「児童生徒に接する時の言葉遣いや態度は適切である」という項目において、保護者・教職員の肯定的な回答はわずかではありますが、下がりました。この結果は、教職員一人一人が真摯に受け止めて、今後は、100%の教職員が児童生徒の手本となる適切な言葉遣いや態度に改善され、実現度の肯定的な回答が 100%になるように、取り組んで行くことが必須

の課題だと捉えています。

②<丈夫な身体をつくる>

「学校での取り組みは十分」95%以上の保護者・教職員から高い評価。しんどい時には、徐々に自分で大人に伝えられるようになってきている。

「学校では、健康維持や体力づくりに関する取組が十分に行われている」の項目に於いて、学部別の保護者の回答は若干下がったところがありますが、保護者・教職員共に肯定的な回答が、95%を超える高い評価となりました。また、日々の体調面に関する項目に於いて、「わたしは、子どもが健康について意識できるように取り組んでいる。（「しんどい」ことを伝える、薬を飲む、体力づくり等）」の肯定的な回答は、保護者・教職員共に85%を超える評価となりました。児童生徒自身が、自分の体調を意識することや、不調な時に周りの人に伝えられることは児童生徒の安心につながる大切な力です。一方、児童生徒のアンケートでは、「しんどくなった時に、先生や家の人に話している」の項目に於いて肯定的な回答が前期と比べると少し下がりました。児童生徒の姿から、児童生徒は自分の体調について伝えようとする反面、まだ十分にできていないという思いの表れであると考えます。自分の体調を、自分なりの方法で伝える力は、健康を保持する上で重要なことです。毎日の健康観察時での担任とのやり取りや、保健室での養護教諭とのやり取りを通して、これからも取り組んできたいと思います。



③<人を大切にし、共に生きる>

「相手のことを考えて行動する態度が育っている」 13.1 ポイント上昇。
マナーやルールの習得は家庭と学校の連携が必要。

「子どもは、相手のことを考えて行動しようとする態度が育っている」という項目に於いて、保護者の肯定的な回答は前期と比べると13.1ポイント上がりました。学部別でもそれぞれの学部で実現度が上がりました。児童生徒の育ちが日々の生活を通して見られるようになったことが伺えます。それに対して、教職員の肯定的な回答は前期より少し下がりました。これは、教職員が、児童生徒に育てようとしている姿がさらに高まり、目指す児童生徒像が高くなかったことが考えられます。児童生徒の力を信じて、更に伸ばそうとしている結果であると考えます。

「子どもはいろいろな人と関わって活動している（学校での校外学習、実習、地域の行事参加等）」の項目に於いて、肯定的な回答は保護者・教職員ともに前期より上がりました。学校では、いろいろな人と関われるよう様々な学習を通して取り組んでいます。前期に比べると、活動範囲や人と関わることが広がったと考えられます。いろいろな人と関わり活動する力は、卒業後の生活に向けて必要な力であると考えています。

「わたしは、子どもが人と関わっていく上でのマナー・ルールを身に付けられるようにしている」の項目に於いて、肯定的な回答は保護者・教職員ともに前期より上がりました。学校は家庭と連携をして、各部で取組を進めた結果が表れたのではないかと考えます。人と関わっていく上でのマナー・ルールを身に付けられるようにするには学校だけ、又は家庭だけで取り組むことは難しいことだと言えます。これからも、それぞれの生活年齢に沿って、児童生徒一人一人が、生き生きと人と関わりながら生活していくように取組を進めていきたいと思います。



④＜役割を担い役に立とうとする＞

「学校では役割を担い主体的に活動」 高等部に上がるほど実現度が低かった回答は改善。できることを見つけて褒めるは高等部保護者、11.1 ポイント増加。

「学校では、子どもが役割を担い主体的に取り組む活動をしている」の項目では、保護者・教職員共に 90% を超える肯定的な回答がありました。前期の保護者の回答では、高等部へ上がるほど肯定的な回答率が下がっていましたが、今回はそのような傾向はなく、全ての学部において肯定的な回答が上がりました。教職員は、前期の結果を受けて、「何のために学習をしているのか」、「どんな力をつけたいのか」等、取組の意味や学習のねらいを、保護者に適切に伝えられるように改善を図っていきました。その結果が表れたのではないかと考えます。

「わたしは、子どもの「できること」をみつけて褒めている」の項目に於いて、その重要度は、保護者・教職員共に 99% を超えていました。しかし、後期の保護者の肯定的な回答を学部別に見ると、小学部では 83.9% で前期より 6.1 ポイント、中学部では 3.6 ポイント下がりました。この背景に何があるのかは、保護者と連携することを通して確認ができればと思います。一方で、高等部の保護者の肯定的な回答が 11.1 ポイント上がりました。褒められることは誰しもうれしいことです。できたことを具体的

に褒めてもらえたことで、児童生徒は、自分自身を受け止めてもらえたという安心感やできたことでの達成感を抱くことができます。このような結果が表れたことは、教職員全体で共有し、これからも、家庭と連携をしながら、児童生徒の自己肯定感を育てていく大切な関わりとして、児童生徒の「できた」をたくさんみつけて、たくさん褒めて、児童生徒の力を伸ばしていきたいと思います。



⑤＜願いや夢に向かってすすむ＞

「前期より児童生徒は意欲的」 適性や年齢に応じた進路指導や関係機関との連携はやや課題か。

「子どもは目標や意欲を持って活動している」という項目に於いては、前期と対比すると肯定的な回答が保護者、教職員ともに少しずつ上がってくるという良い結果が見られました。後期にあった授業参観時のアンケートからも「みんないい顔をしていました」や「集中して取り組めていて、子どもの成長を感じました」等、感想をいただきました。児童生徒アンケートの「学校の授業の内容が分かって活動できている」の項目でも肯定的な回答は前期より上りました。後期、教職員は保護者に対して、児童生徒が「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何が身に付いたのか」等、取組内容や児童生徒の様子について明確に伝えていけるように励んだ一年であったと思います。肯定的な回答が上がってきたとはいえ、実現度は60～70%程度です。これからも、日々の学習に於いて子ども達が意欲を持って取り組める、より良い授業づくりをめざし、取り組んできたいと思います。

「学校は、保護者と連携して、子どもの進路（次年度、次学部、卒業後）について考えている」の項目では、教職員・保護者、さらに全ての学部に於いて、肯定的な回答が上りました。前期の保護者の評価では、肯定的な回答が70%台という低い結果でしたが、後期は85%を超える高い評価が得られました。前期の評価を踏まえて、教職員は児童生徒の情報を保護者と丁寧に共有することができたのではないかと考えます。これからも、児童生徒のできる力を基にして、それぞれの進路について一緒に考えていきたいと思います。

⑥＜興味や関心を拡げ心豊かに生きる＞

「子どもは興味・関心を拡げ個性を伸ばし、好きな活動や興味のあることを見つけている」 今後もよりよい授業づくりをする。

項目に於いて、全ての学部・教職員ともに肯定的な回答が上がりました。

今年度は、『「主体的、対話的で深い学び」の視点での授業改善』をテーマにして授業研究を行ってきました。各学部と連動しながら、子どもたちにとってより良い授業づくりに励んできました。今年度の成果を次年度にいかし、これからも子どもの興味関心を拡げ、個性を伸ばせるような良い授業が作れるよう取り組んで行きたいと思います。

⑦＜その他＞

前期に比べ物品の整理はできているが、今後も取組を進める。今後も自然災害対策の必要性あり。

「学校は、物品の整理・整頓や安全・事故防止に取り組んでいる」の項目に於いて、肯定的な回答が保護者・教職員共に少し上がりました。今年度は自然災害が続き、安全には一層の対策が必要であることに気づかされました。今後は、古い校舎に対する安全や、建て替えに向けた改修工事等も含め、安全な環境づくりが必須と考えます。子ども達が安心して学習できるよう、これからも物品の整理・整頓や安全事故防止等に取り組んで行きます。

⑧＜学校運営協議会より＞

地域制・総合制の教育の成果あり、今後もより広げ、高められるように。イベントを通して地域とのつながりが広がっている。今後も地域への発信を。手厚い学校生活から、卒業後に生きる力の育成を。

- ・地域制・総合制での教育の成果が表れている。この結果をより広げ、高められるように、成果をつないでいくことが大切である。
- ・呉竹フェスタや、くれたけまつりなどの行事を通して、地域とのつながりが広がりつつある。これからも地域への発信をお願いしたい。
- ・在学中は手厚く教育が行われている。その間に、高等部卒業後に役立つ力を培っていってほしい。

